

はじめに

私はなぎさ公園小学校の創立に関わるという幸運を得た教員のひとりです。開校から8年間、「なぎさっ子」たちと歩みをともにさせていただきました。おそらく私の人生の中でもっとも中身の濃い8年間であったと思っています。

この小学校の設立にあたっては、鶴学園内の中学校、高等学校から私を含めて4名の教員が集められ、教育づくりの軸として配置されました。皆それまで小学校の経験はありませんでしたが、学園の理念を具現化する新しい初等教育を創る、という使命を与えられたのです。私たちはともに知恵を出し合い、語り合い準備を進めました。夢を描きふくらませたその作業は、ゼロから学校を創るという、希望してもまず得られない貴重な経験になっていきました。

開校後は素晴らしい子どもたちや保護者と出会い、さらに意欲的なスタッフが加わり、皆でひたすらに教育の創造に心血を注ぎました。五感をひらき、ほんものに触れ、豊かな感性を養うことが学び心を育み、知性の土台となることを信じて、ありとあらゆる可能性を探り、手だてを考え、教育プログラムとしてまとめていきました。私たちの考えは、子どもの成長は点ではなく線で考えよう、子どもの学びは点から線、線から面へと広げようというものでした。したがって、幼稚園、保育園から学んだ内容もあります。また、中学校、高等学校のプログラムにつなぐために考え出した内容もあります。

この本には、なぎさ公園小学校の「学びのひみつ」がいっぱい詰まっています。子どもの学びを、大切に大切に考えた様々なプログラム。どこにも真似できないだろう、と自負するほどこだわり抜いた学びの仕掛け。それらのほんの一部をご紹介します。

教育は「生もの」です。子どもの学び心を育てるくふうを重ねて、これらのプログラムは現在も進化し続けています。この本ではできるだけ開校時の想いやアイデアを中心にまとめていますので、現在とは多少異なるものがあることをご了承ください。

学びの種を、子どもたちの心に「いつ」「どのように」まくのか、そのためにどんな準備をすべきか、なぎさ公園小学校の教員が常に考え続けていることをお伝えできればと願っております。

2012年 3月

著 者